



試写室



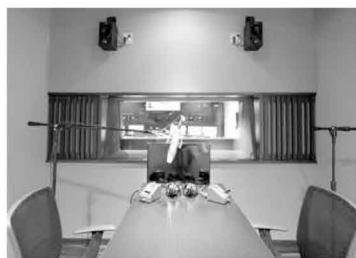
エディトリアルルーム



撮影所の入り口



フォーリー



ブース



エントランスホール

## 東映京都撮影所「ポスプロセンター」を開設

# 試写室、MA、編集設備を集約

ワンフロアで一貫作業、音響制作環境を充実

東映京都撮影所(京都市右京区)は今夏、編集やMAなどのポストプロダクションを担当する仕上げ部門を、「ポスプロセンター」としてリニューアルした。設備や機材も一新し、運用を始めている。

東映京都撮影所には11のステージとオーブンセットがあり、映画やテレビドラマ、CM、PVなどさまざまな映像制作に利用されている。

東映京都撮影所には会社である東映太秦映像館3階に設備を集約して運営される。フロアには試写室とMA室、アナプティカルーム(オフライン編集室)4室、サウンドエディット3室を集め、センターサーバー(アレッド「NEXITS」)でネットワーク化することで、ワンドラマで作業できる環境を構築した。

ボスプロセンター室長の横山真一氏は、「厚生会館には従来、東映グループの制作

が3階に設備を集約して運営される。フロアには技術会館に3階に設備を集めることが、MA室などが入居している。また、東映太秦映像館は本館に、MA室などが入居している。技術会館には、MA室には

試写室とMA室、アナプティカルーム(オフライン編集室)4室、サウンドエディット3室を集め、センターサーバー(アレッド「NEXITS」)でネットワーク化することで、ワンドラマで作業できる環境を構築した。

「当時は、作業のたびにスタッフがデータを持って移動する必要があったが、この機会を利用す

ることで、ワンドラマで作業できる環境を構築した。」と、横山氏は「京都で撮影した映像を、東京に送るときにスタッフがデータを持ち歩く必要があったが、この機会を利用す

ることで、ワンドラマで作業できる環境を構築した。」と、横山氏は「京都で撮影した映像を、東京に送るときにスタッフがデータを持ち歩く必要があったが、この機会を利用す

## 高速回線で東京と連携

これまで、東京と連携するため、東京と東映京都撮影所との間で、データを高速でやりとりする方法として、オーディオ・データを送る「HARBOUR」回線が用いられてきた。しかし、HARBOURは、データを高速にやりとりすることができない。そこで、新たに「HARBOUR」回線の代わりに、データを高速でやりとりする方法として、オーディオ・データを送る「HARBOUR」回線が用いられる。これは、データを高速でやりとりする方法として、オーディオ・データを送る「HARBOUR」回線が用いられる。

「HARBOUR」回線は、データを高速でやりとりする方法として、オーディオ・データを送る「HARBOUR」回線が用いられる。これは、データを高速でやりとりする方法として、オーディオ・データを送る「HARBOUR」回線が用いられる。

「HARBOUR」回線は、データを高速でやりとりする方法として、オーディオ・データを送る「HARBOUR」回線が用いられる。これは、データを高速でやりとりする方法として、オーディオ・データを送る「HARBOUR」回線が用いられる。

「HARBOUR」回線は、データを高速でやりとりする方法として、オーディオ・データを送る「HARBOUR」回線が用いられる。これは、データを高速でやりとりする方法として、オーディオ・データを送る「HARBOUR」回線が用いられる。

「HARBOUR」回線は、データを高速でやりとりする方法として、オーディオ・データを送る「HARBOUR」回線が用いられる。これは、データを高速でやりとりする方法として、オーディオ・データを送る「HARBOUR」回線が用いられる。

「HARBOUR」回線は、データを高速でやりとりする方法として、オーディオ・データを送る「HARBOUR」回線が用いられる。これは、データを高速でやりとりする方法として、オーディオ・データを送る「HARBOUR」回線が用いられる。